

プログラム化に関する前回の宇宙科学・探査小委員会の議論のポイント（案）

○JAXA で検討中の月・火星探査のプログラム化

- JAXA の検討の中に米国や欧州の月・火星探査の動向とそれに対する対応というものも明記した方が良いのではないかと。
- JAXA で検討中の月・火星探査についての科学的意義についてはこれから確認される段階であり、前回の科学的意義と国際宇宙探査の背景が整理されていなかった資料から、今回は国際宇宙探査として月を探査する理由ということで実用面に焦点を絞って説明しているということではないかと。

○科学探査・国際宇宙探査に関する各国動向

- 月探査については、日本は「かぐや」の次のプロジェクトの立ち上げが遅れた印象はあるが、現在の計画を進めることで国際的な存在感を出すことは可能。一方、火星探査については MMX まで探査がないので国際的に厳しい状況であり、先行者による探査ルール作りにより日本の火星探査に影響がある可能性はある。
- 各国が月・火星探査を多く実行・計画している中で日本としては、科学探査と国力のプレゼンスとしての探査のどちらに重点を置くのかを明確にする必要があるのではないかと。
- Gateway に日本がどのように関わっていくかが政策的には一番重要ではないかと。

○宇宙探査に向けた技術の開発状況

- JAXA の宇宙探査イノベーションハブ及び宇宙科学研究所で開発を行っている技術は戦略的に大切な技術であり、技術の実用化に向けてはフロントローディングも活用して戦略的に取り組むべきではないかと。

○プログラム化について

- 「プログラム化」ということでは、国際宇宙探査の観点からの筋書、科学探査の面からの筋書について整合性を持って書く必要があり、その筋書の中で、プロジェクトは例示で紹介するというのではないかと。
- 科学探査では国際宇宙探査のチャンスもうまく使うべきであるが、国際宇宙探査を意識すると、科学目標の優先順位が下位となる可能性があり、国際宇宙探査において実施する科学探査については慎重に選ぶ必要があるのではないかと。
- 「プログラム化」に当たっては「宇宙科学のプログラム化」を前面に出す必要があるのではないかと。国際宇宙探査に言及する中で科学探査にも言及するという形では科学が従属的になる懸念があるのではないかと。プログラムにより科学探査の全体像を示し、そこから開発する技術がどのように使われるかを示すことが重要ではないかと。

- 現時点では、日本が科学探査として行う月・火星探査の具体的なプロジェクトの提案が出ていない状況。このため、科学探査がメインでなく、国際宇宙探査の中で科学探査も行うという議論になっているのではないか。
- 科学探査ということでは宇宙科学・探査小委員会として科学探査としてどのようなものが良いか、そのためにどのような技術を開発するのか、という議論も行ってもよいのではないか。